

紙版 ハコブネ×ブックス vol.48

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。



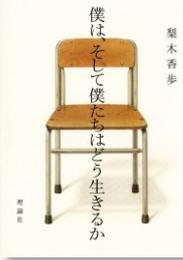
旅する練習

作者 乗代雄介
出版社 講談社
発行 2021年1月
ISBN 978-4758049689

review



乗代雄介
旅する練習



僕は、そして僕たちはどう生きるか

作者 梨木香歩
出版社 新潮社
発行 2011年4月
ISBN 978-4652079799

review

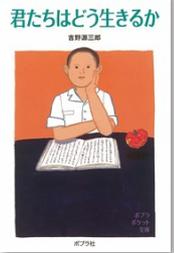


僕は、そして僕たちはどう生きるか
梨木香歩

特集

真理を語るおじさん、おばさん

子どもの将来を考えて、あえて厳しいことを言う両親の真面目なお説教よりも心に響くもの。それは、両親の兄弟姉妹である、おじさん、おばさんからのアドバイスです。世間体や体面などを気にせず、思いもよらぬ観点から真を穿つことを言う。自由人である彼らは、いい意味で無責任であり、勝手な立場です。一九三七年に刊行された『君たちはどう生きるか』では、母親の弟である若い叔父さんが、心の地動説に目覚めた甥をコペル君と名づけ、叱咤激励し、影響を与えました。少年少女に真理を語り、この世界の秘密に気づかせる。この魅力的なボジションは今もって健在なのです。



君たちはどう生きるか
吉野源三郎
ポプラ社 2011年8月

虹色のパズル

作者 天川栄人
出版社 文研出版
発行 2023年6月
ISBN 978-4580825826

review



人が興味を持つようなことに関心がなく、空気が読めない琴子（こ）は、中学一年生になった今、周囲に合わせ、なるべく変な子に思われないようにしながら教室での居場所を確保してきました。そんな琴子が、この夏休み、これまでよく知らなかった母親の弟である叔父さんと暮らすことになりました。メイクアップアーティストだという叔父さんは、夜はお店でアイリスと名乗り、派手な女装でパフォーマンスを演じるドラッグディーラーでした。叔父さんは琴子が得意なことさえ隠してしまふことに気が付きます。叔父さんの存在に圧倒された琴子は、反感を持たれることや嫌われることを怖れず、自分らしく生きていくことを考えるようになつていきます。本当の自分を隠し続けていた琴子が変わり始めるための第一歩を踏み出します。

すこしずつの親友

作者 森竺こみち
出版社 講談社
発行 2022年6月
ISBN 978-4065278635

review



「親友って、どうやってたつてくれるの？」と姪に質問されて、母親の姉である伯母さんは答えます。旅行好きの伯母さんは世界中を旅しています。そして旅先の各国で「すこしずつの親友」と出会ったと言います。しかし、それは、親友どころか友だちでもないし、知り合いですらない場合もあるのです。伯母さんの口から語られる回答は、**姪の世界観を揺るがします**。伯母さんは旅先で出会った忘れがたい人たちとのエピソードを披露するものの、はっきりとしたサジェストはありません。それでも伯母さんとの対話の中で、姪は自分の気持ちの本質を見つけていきます。親友を求める気持ちとはなにか。その**根源への旅**。ひりひりするような気持ちで孤独を感じていくことや、周囲と上手くやっていくことを求められる閉塞感。伯母さんが見せてくれたものが、姪の世界を広げていく予感が灯されます。

特集

真理を語るおじさん、おばさん



ロビンソンおじさん
(今村章子)
講談社 1988年

夏休みにたずねてきた叔父さんは、夢見がちな大人げない大人でした。六年生のとも子は、叔父さんと交わす会話から、この世界の不思議を知り、真理に近づいていきます。子どもたちの世界観を覆す、そんなきっかけを与えてくれる、おじさん、おばさんの動向はこちらから。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.48

2024年9月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作、語々を受賞。

